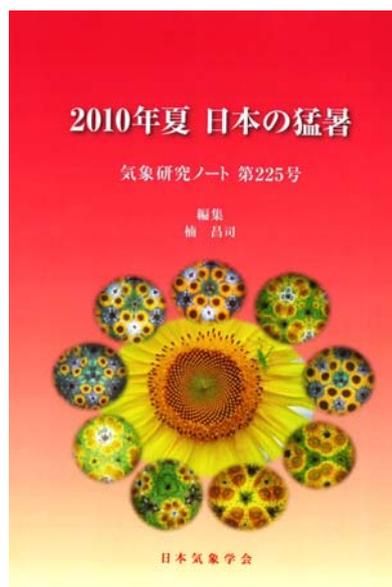


気象研究ノート第 225 号  
「2010 年夏 日本の猛暑」 発行のお知らせ

気象研究ノート編集委員会



2010 年の夏に日本の平均気温が、気象庁の統計開始以来の最高記録となりました。日本では多くの方が熱中症で亡くなり、熱中症の予防法や対処法が頻繁に報道されました。地球温暖化に伴い、日本の気温が過去 100 年間に次第に上昇してきたのは確かです。しかし、2010 年の夏の日本付近の気温偏差は温暖化の上昇幅と比べて非常に大きいため、地球温暖化以外の原因があったと思われます。日本の外では、2010 年の夏は、ロシアの熱波、パキスタンの大雨など、地球規模で異常気象と呼ぶべき変動が多数起きていました。地球の大気は一つに繋がっているので、ある場所の異常気象が他の場所の異常気象を引き起こすことがあります。本書は、最新の研究成果を基に、2010 年の夏の様々な異常気象の実況、要因、予測に関する科学的知見について詳細にまとめました。本書が今後起こりうる極端な気象現象や異常気象の原因解明と予測に役立つことを期待します。

【目次】

- 第 1 章 2010 年夏の日本の天候と大気循環場の特徴
- 第 2 章 2010 年不活発な台風活動
- 第 3 章 2010 年夏の熱中症
- 第 4 章 2010 年夏季ユーラシア域の異常気象の連関と偏西風の異常蛇行
- 第 5 章 インド北部ラダークの洪水
- 第 6 章 2010 年：北極振動の冬から夏への極性反転と猛暑の連関
- 第 7 章 2010 年 7 月の日本の猛暑の出現と熱帯循環場の急変
- 第 8 章 「2010 年夏季における中緯度対流圏の昇温」 中緯度対流圏の昇温はどのようにしてもたらされたのか？
- 第 9 章 2010 年夏の東アジアにおける異常気象と遠隔影響パターン
- 第 10 章 気象庁季節アンサンブル予報システムによる 2010 年夏の予測
- 第 11 章 大気海洋結合モデルを用いた 2010 年夏の季節予測実験 —2010 年猛暑に対する大西洋海面水温偏差の影響—
- 第 12 章 MIROC 大気モデルによる 2010 年夏季の天候再現実験
- 第 13 章 MRI-AGCM による 2010 年夏の再現実験
- 第 14 章 2010 年夏季のヨーロッパ・ウラルブロックとその将来変化
- 第 15 章 高解像度大気モデルによる日本付近の熱波の将来予測
- 第 16 章 地球温暖化に伴う熱中症の被害予測

【編集】 楠 昌司

B5 判 190 ページ、 2012 年 5 月 10 日発行

【価格】 会員：3,400 円、 会員外：4,900 円